学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報
今月のトピック紹介版

6月号

子供の反応を予想し展開場面を充実

ICTを効果的に活用し、児童生徒の資質・能力の育成を図る

組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」
「学校いじめ防止基本方針」に基づいた安心・安全な学校づくり

特別支援教育ほっと通信
特別支援教科用図書について

幼保小接続アドバイザーを派遣します

西部地区で活躍するエキスパート教員を御紹介します！

すべての子供に「できた」「わかった」を！

子供の反応を予想し展開場面を充実

西部教育局
お役立ち情報
令和5年6月号

５月号では、Ｉ単位時間のゴール(Ｂと判断する状況)を具体的に設定することについてお伝えしました。

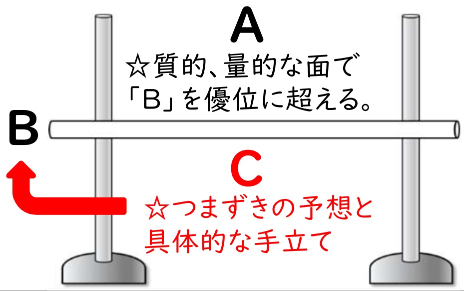
今月は、設定したゴールへ向けて、全ての子供たちが学びを進めることができるよう、展開の充実についてお伝えします。Cの様相の子供に対して、Bの基準を下げるのではなく、つまずきの予想と具体的な手立てを行い、Bの様相へと高めることが必要です。

Ｂ規準を高跳びのバーに例えた学習評価のイメージ

参考:「学びの文脈」明治図書　樺山敏郎著

※指導事項を教材（題材）に合わせて評価規準→評価基準

「B」の高さ（難度）とは、目標を実現した子供の姿

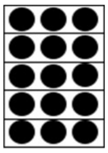
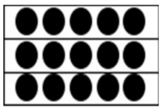


子供のつまずきを見抜く目と具体的な支援につなげる力を養うことが大切！

やってみよう！　子供の反応（つまずき）の予想と具体的な手立てを考える！！

- ・問題や発問に対する子供の反応を予想しましょう。
- ・望ましい姿だけでなく、つまずきの様相や「C努力を要する状況」の姿も想定しましょう。
- ・学習活動を改善するための手がかりをアドバイスできるようにしましょう。

(例)2年生 「かけ算」 本時目標：基準量が後に示された問題を、かけ算の意味を基に式に表し解決する。
問題：おかしのはこが3こあります。Ｉつのはこには、おかしが5こずつ入っています。おかしはぜんぶで何こありますか。

子供の反応を予想		具体的な手立て
≪CＩの様相≫ 3個の5つ分だから、式は3×5	・かけ算の意味が理解できていない。 ・一つ分の大きさと幾つ分が捉えられていない。	※CをBに高めるための手立て Ｉ個にお菓子が5個入っている絵を見せ、図に表現させることで、Ｉつ分の大きさが5であることに気付かせる。
≪C2の様相≫ 式は、5×3で、図もかいてみたよ。	・立式はできているが、一つ分の大きさと幾つ分が捉えられていない。 ・式と図を関連付けて考えられていない。	※CをBに高めるための手立て かけ算の式の意味から、Ｉつ分の数が5であることを確認し、かいた図が場面の数量と違うことに気付かせる。
≪Bの様相≫ 式は、5×3で、図をかいてみたよ。	・一つ分の大きさと幾つ分を適切に捉え、式と図に表すことができている。	※BをAに高めるための手立て ノートに説明の言葉を書かせ、式と図を関連付けて説明できるようにする。

☆答えに至る過程において「子供がどう思考し、どこでどうつまずくか」を子ども目線に立って具体にすることで、子供の様相が「見える」ようになります。
☆子供の姿が「見える」と、個々の学習状況に応じた指導につながり、子供たちが今以上に力を発揮できるようになります。

机間指導で子どもの様相を見取り、展開の充実につなげる際に参考となるお役立ち情報もぜひご覧ください☞

「効果的な机間指導」「効果的な机間指導②」「学ぶべきことを焦点化」

ICTを効果的に活用し、児童生徒の資質・能力の育成を図る

西部教育局
お役立ち情報
令和5年6月号

とっとり県版SAMRモデル

SAMR（セイマー）モデル（Ruben R. Puentedura2010）とは、ICTが授業にどのような影響を与えるかを示す尺度となるものです。
鳥取県では児童生徒の資質・能力の育成を図るため、SAMRモデルを以下のように捉え、引き続き、授業におけるICTの効果的な活用をめざします。

S ubstitution 《代替》

アナログでできたことをデジタルで代用

●紙でもできることをデジタル化する

（例）教師が…
- デジタル教科書で本文を提示する
- 端末を使って作図する
- ドキュメントで作文を書かせる
- PDFで課題を配布、回収する
- 大型提示装置を板書代わりに使う
- カメラの代わりに、端末で写真を 撮影させる

※これらを子どもが自ら選択する場合は、「M」段階にある

A ugmentation 《増強》

デジタルの特性を生かして、学習効果向上

●デジタルの利用により付加価値が加わる

（例）教師が…
- 全員の考えを共有して、思考させる
- ファイルを共有して共同編集させる
- コピーや校正の機能を使って文章を推敲させたり、試行錯誤させたりする
- コメント機能で相互評価させる
- データの即時集計や可視化をする
- デジタル教科書を使い、英語の音声を流す
- 児童生徒の学力に合った問題を出題するコンテンツを活用させる

M odification 《変革》

授業デザインが変容し、新たな学びの実践へ

●個別最適な学びや協働的な学びの実現に近づく

（例）子どもが…
- 「A」段階までの取組を自ら選択して学習に活用する
- スタディ・ログを積み重ね、レコメンド機能等も活用しながら、学習調整を行う
- 校外とオンラインでつながり、共同でPBL（プロジェクト型学習）に取り組む
- 自分の苦手分野、必要な教材を自覚し、自分で予定を立てて学ぶ

R edefinition 《再定義》

実社会の課題解決や新たな価値の創造

●実社会の課題解決や新たな価値を創造する

（例）子どもが…
- 学習成果をSNSやHPをとおして社会にリリースする
- 最新テクノロジーを積極利用する
- ICTによるタスク管理や相互コメント等によってプロジェクトを進行・完結する
- 空間的、時間的にとらわれず学習する。

※新たな可能性が開かれる段階のため、「M」以上の取組「R」と捉える

ICT活用を進める上で、このようなお悩みはありませんか？そんな時には…

- 教職員のスキルアップを図りたいのだけど…
- 今の使い方は効果的なのかな？
- もっと活用方法を知りたいのだけど…
- Mの段階に進むためにどうすればいいのかな？

西部教育局所属の教育ＤＸ推進員をご活用ください！

【教育DX推進員とは…】

①学校の実態と目的に応じたICT活用の推進に向けた情報提供を行います。
②各校の取組の良さに着目して、他校への情報提供を行い、鳥取県全体のICT活用の推進を支援します。

教育DX推進員の石原です。活用を希望される際には、西部教育局へ御連絡ください。日時や内容について調整しながら対応します。

☆例えば、こんなことができます！

①児童生徒がＩＣＴを効果的に活用する授業づくりについての情報提供や支援
②情報活用能力を育成する授業づくりについての情報提供や支援
③デジタル教科書の活用についての情報提供や研修会の実施
④プログラミング教育についての教員への支援
⑤Google WorkspaceやiPad、Chromebook、WindowsPCの活用についての助言
⑥ＩＣＴ支援員等への支援や指導
⑦その他、学校からの要望等への対応（対応の可否は要相談）

※DXとは、デジタルトランスフォーメーションの略。教育DXとは、教育において最新のデジタルテクノロジーを活用することで、教育の手法や手段、教職員の業務などを変革させること。